

地域との交流から 札幌国際センター・帯広国際センター

「国際フェスタ in 十勝 2006」開催

2月9日(木)～14日(火)まで帯広市内のデパート、藤丸のカルチャーホールを会場に国際フェスタが開催された。十勝管内で国際交流・国際協力活動をしている団体などが一堂に会して、身近なところでどのような活動が行われているかを知ってもらおうと十勝インターナショナル協会が主催した。

団体や関連機関によるパネルや写真での活動紹介、「世界の食」の屋台、海外の物産の販売などが行われ、おおぜいの来訪者で賑わった。

JICA帯広国際センターは研修員のホームステイやホームビギットの様子を写した写真をパネルにして展示した。また、これらの写真は記念写真集としてまとめられ、ホストファミリーに配布された。



JICA研修員の滞在記録写真に見る市民たち



人気の「世界の食」の屋台



支援事業の展示

北海道の冬を満喫・石狩市浜益区

さる2月11日(土)・12日(日)、アフリカからの研修員17名が浜益区を訪ね、厳冬期の北海道を満喫しました。

初日のかまくら体験では、17人全員が入れるほど大きなかまくらに入り、コーヒーや甘酒を飲んで趣のある暖かい時間を過ごしました。料理交流会では、アフリカではボピュラーなウガリ^{※1}を作つて浜益のみなさんに振舞い、喜んでもらいました。

2日目の小学生との交流では、激しく雪が降る中、雪合戦や雪だるま作り、中でもそり遊びに夢中になって遊んでいました。

行く途中、視界不良になるほどのブリザードに襲われた時は少し不安な表情を浮かべていましたが、そんな不安など無かったかのように楽しい2日間となりました。参加した研修員の一人は「浜益の経験があれば、どこでも生きていくことが出来る」と言い残して、帰国しました。北海道の厳しい冬を体験することもまた、貴重な研修となつたようです。

※トウモロコシの粉を湯で練り丸めて蒸したもの



首に巻いたマフラー やマスクがいかにも寒そう

北海道内の国際協力・国際交流団体から 地域の活動

NPO さっぽろ自由学校「遊」 コーディネータートレーニング研修を開催 －国連・持続可能な開発のための教育(ESD)の10年に－

国連は、毎年、世界が直面する多くの問題の中から特に取り組む課題を取り上げて「国際年」を定め、各國政府などに働きかけをします。今年2006年は「砂漠と砂漠化に関する国際年」、そして昨年始まったのが「命のための水」の10年(2005-2015年)と、「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」です。

ESDは、社会・環境・経済・文化などの分野で私たちが直面する様々な課題について、公正で豊かな未来を創る「持続可能な開発」を実現するために必要な学びを始めようとするものです。札幌のNPO法人、さっぽろ自由学校「遊」ではこれに応えてESDコーディネーター研修を開始しました(2006年2月帯広市、3月旭川市)。以下は旭川での開催の様子です。

旭川市で開催したESDコーディネーター研修は、3月17日から18日にかけて「旭川からはじめよう～持続可能なまちづくり」をテーマに行いました。参加人数は20名程で、旭川でNPO活動を担っている人や国際協力活動に関わる人から「新聞を見て」という人まで多様な層の人たちが集まりました。ファシリテーターをお願いしたESD-J^{※1}理事でECOM^{※2}代表である森良さんのアプローチは「自分発、地球経由、旭川着」。ワークショップはまず個々人が今の社会で「持続不可能だと思うこと」を出し合うところからはじまりました。各々が「持続不可能な状態」を「持続可能な状態」に変えていく。そ

のプロセスこそが各々にとってのESDのこと。「なるほど…」と納得しました。メインとなるワークはグループに分かれてのESD企画案づくりと実行プランづくり。知恵を寄せ合ってプランを具体化していく作業はとても楽しく、「これなら実際にできそう!」とワクワクしてきました。

地球環境や南北格差などの地球規模の課題も、地域の抱える課題も、一人で頭を抱えていてもなかなか出口はみつかりません。でも、こうして個々人の経験を持ち寄りながら知恵を出し合うと様々な課題相互のつながりが見えてきて、実現できそうな面白いアイデアがいろいろと産みだされます。自分の关心と地球的諸課題をつなぎ、そして地域を変えていく。ワークショップを通してそうした意識が広がっていくことが「持続可能な開発」を実現していくことにつながる…そんな実感をもつことができた2日間でした。

小泉雅弘

(さっぽろ自由学校「遊」)



研修風景

NPO法人さっぽろ自由学校「遊」

札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル2F TEL 011-252-6752

※1:「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

※2:エコ・コミュニケーションセンター